

# 練馬Press

## 盛り上がった!! 第11回「ニューイヤーコンサート」

回を重ねること11回。恒例の早稲田大学交響楽団の新春コンサートが、練馬文化センターで1月14日(土)PM5:00時から行われました。最強の寒気団が列島をすっぽり覆った当日ですが、1400席の会場は早い時間から一杯。

元フジテレビの人気アナ小林大輔さんの司会、曾我大介さん指揮により行われた演奏は、一部がセビリアの理髪師、フィガロの結婚が華麗に演奏され、二期会オペラの高橋維(ソプラノ)、吉川健一(バリトン)の独唱が加わり華を添えました。

二部は、マリンバと弦楽合奏のための協奏曲やワルツなどが演奏され、マリンバは文化構想学部4年の小杉真澄さんが登場。力強くリズムカルな演奏に会場が聴き入りました。

また、最後のワルツのラデツキー行進曲、美しき青きドナウでは、会場から手拍子が起こるなど盛りあがりました。

続いてこれも恒例の「早稲田の栄光」「都の西北」で会場全体がひとつとなり校歌を斉唱しました。

この模様はJ:COMチャンネルにて2月に2回



二期会オペラの高橋維さん(ソプラノ)の実演

放映されました。

また例年通り、売上金の一部を「練馬区緑を育む基金(葉っぱ基金)」に寄付をしました。

(文:鈴木 奎三郎/写真:岡田 吉郎)

## 七福神めぐり 「山手七福神」を50名が歩け歩け……

毎年恒例となっている「七福神めぐり」。今年は江戸最初の七福神巡りとなった山手七福神で行われました。

1月7日(土)、厳しい寒さのなか、集まった善男善女は50名。一年間の家内安全、無病息災、商売繁盛などを祈りました。

白金台の覚林寺(毘沙門天)をスタートに、瑞聖寺(布袋尊)、妙円寺(福祿寿・寿老人)、下目黒の大円寺(大黒天)、幡竜寺(弁財天)、目黒のお不動さままで知られた滝泉寺(恵比寿神)まで、3時間の新春ツアーとなりました。

ぶらぶら歩きはけっこう疲れるものですが、最後まで落伍者もなくそれぞれが新年のお祈りをしました。



案内役は歴史に詳しい歴史ウォーキング部会の八巻孝夫さん。随所で適切な説明があり、充実した新年行事となりました。

## 第2回新年会 盛りだくさんの趣向に118名が参加!!

1月は第11回「ニューイヤークンサート」を行ったため、2月11日(土・祝)に少々遅めの新年会を開催しました。

会場は練馬駅近接のココネリホール。厳寒のなか、午後6時スタートの第1部「お箏と落語の夕べ」には、時間前から続々とみなさんが集まり、にぎやかな雰囲気の中、OGの松波千紫による新春にふさわしい華麗な演奏があり、続いてやはりOBの古今亭志ん吉さんの落語で初笑いとなりました。

第2部は着席によるビュッフェ形式の懇親会。荻野隆義会長の挨拶で始まりました。趣向として、TAIKO-LAB浅草による和太鼓の演奏、盆太鼓なども加わり、充実した楽しい一夜となりました。



実施に当たっては、ゴルフ部、麻雀部に事務局スタッフが総力を挙げて取り組んだ結果、過去に例を見ない118名のみなさんが参加しました。当会のパワーアップが実証された一夜でもありました。

雑感

手塚 康博



昭和20年の春、陸軍航空学校に願書を出した。中学の先生の言わんとすることであった。

知力、適応力、体力のテストと中将の試問を経て、1か月後に通知があった。不本意の合格により、6月に滋賀県の大津校に入学した。

朝6時から夜9時まで、航空に必要な知識と軍事訓練の日々、迂闊にしていると鉄拳をくらった。2か月目に入ると、心身ともに疲れが出てきた。朝、隣りのベッドに校友がいない。自殺したのだ。心が通じていたのに……。

8月になると、校内が雑然となってきた。当直将校や担当伍長が不在がちになった。そして8月15日終戦。当夜、比叡山延暦寺の灯明が一際閃き、暗夜に平和を祝ったのである。

8月の末になると、校生は手

当、衣服の支給を受け校門を背にした。私は12時間を要して東京・東小松川の実家に着いた。母は感無量のようにであった。

敗戦後の社会は食糧難、失業、治安の悪化などで、暫くは分別がつかなかった。しかし改めて業を考え、一学年から勉強することに決め、水道橋の予備校に通った。自分と同様の事情の生徒もいて、なかにはピストルを持った者もいた。

早稲田大学には昭和27年に入学した。この年は戸塚警察による学生運動の内偵に端を発した校内暴力事件が発生し、入学早々ながらこの抗議行動に参加した。政経学部の廊下には点々と血痕が残っていたことを鮮明に憶えている。

ドイツ語の山崎先生から「練馬はよいところだ」と言われて、下町から引越してきた。また先生からは「あの女子学生と付き合ったらどうか」と囁かれたこともあった。残念ながらそのお勧めには従えなかったが、懐かしい思い出である。

東洋史学の根本先生は高校時代からの恩師でもあり、よく教

えを乞うたものだ。お酒が大好きで、ご家族ともども親しくお付き合いをいただいた。

安保闘争と早慶六連戦

大森 連司



学生時代、石田栄雄教授(国際政治)のゼミと山内義雄先生(仏文学)の教室以外、大教室の講義はほとんど記憶にない。ただ大学近くの長寿庵二階で、時々集まり、今でいうコンパは懐かしい。

ゼミ仲間、雄弁会、体育会系等雑種多様で逞しい輩の集まりだった。勿論ワセジヨは居るよしもない。

再現するに、パソコンもスマホもない時代だ、まずは情報交換。あとは上半身裸で音頭とるのがいて、校歌、応援歌、大学かぞえ歌、人生劇場、そして各々出身地の民謡と盛り上がった。名付けて「さんざん会」と称した。これにより親睦の輪が広がり、今も付き合い合っている友

両先生には今でも感謝の気持ちでいっぱいである。

(S31・政経)

人も多いのだ。

さて1960年、岸内閣の日米安保改正に反対するデモが全国に吹き荒れ、呼応する学生運動も全学連中心に激しかった。ノンポリの私は外から傍観するのみだったが、この時安保堅持の立場で同志を束ねて敢然と立ち向かって闘ったのが、政治学科で盛岡出身、玉澤徳一郎兄だった。

結果は、同年6月に安保改正は批准成立、日本は70年の平和と安寧を享受出来たわけだ。以来彼のイデオロギーである正義と国を愛する心は一步たりともブレていない。今も私が信奉する友だ。

その後彼は、紆余曲折を経て1994年、自社連立村山内閣で防衛庁長官に就任する。祝賀会の席上、座敷の真ん中で二人ガッチリ肩を組み「同期の桜」を声高らかに歌った時の感涙は忘れられない。もう一人忘れられない畏友にふれる。安保終息の秋、今も語

り草となる「早慶六連戦」。真っ白いユニホームの下手投げから繰り出す速球とカーブで連戦連投の末、早稲田を優勝へ導いた立役者、安藤元博君だ。毎試合、学生服角帽のゼミ仲間と最前列に陣取り、一投一打声をかかって応援、ついに「早稲田の栄光」に酔い、更に新宿の街からコマ広場へ陣とストームの群れ又群れ、その中にいつも居た。

卒後数年して安藤君がプロ野球界を離れ建築業界に来ると、共通の友も多くすぐうちとけて、「俺お前」の付き合いが続いた。そしてある時ゴルフ場で「実は！」と体調の異常を聞かされて、すぐ入院、手術。お見舞いに行くと、いつもの丸亀訛りで「大森すまんのう」と一言。そして間もなく築地本願寺で大勢の友人と応援部の「都の西北」に送られて逝ってしまった。校歌の後の寂寥の中、彼のもたらした青春の残影を追ってしばし立ちつくしていた事を思い出す。1996年つゆ空の下、享年57歳だった。

最後に、傘寿を目前にして「我が人生に早稲田ありき」を痛感する。今後も練馬稲門会の皆様、宜しくお願ひします。

(S37・政経)

## 演劇にのめりこんだ時代

竹内 尚代



第一次早稲田闘争の頃に学生だった私は学生運動とは距離を置いていた。

いわゆるノンポリの学生だった私には、クラスを回ってくる活動家の話し方がまったく理解できなかった。それでも学内でデモをしてから高田馬場まで多くの学生がデモに行くようになって、座しているのがいけないような気になった。参加して見たものの、デモは怖くて仕方がなかった。

そんな現状から逃げるようにして、演劇の世界に飛び込んだ。高校時代も演劇部だったので、演劇の世界は身近だった。

学内劇団の「仲間」にクラスメイトから誘われ、私は俳優には向かないとすぐに悟ったが、劇団の仲間との交流が面白くて

一緒に遊んでいた。

そのなかに寺山修司に見いだされて前衛的なミュージカル劇団「東京キッドブラザース」を立ち上げた東由多加がいる。

私が「仲間」の舞台に関わったのは1つだけだったが、その後学外の人も加わった「海象」という劇団に参加していった。

いつも私は制作の側で、プログラムを作ったり、お弁当の手配をしたりと雑用ばかりなのだが、表も裏も一緒になって芝居を作りあげていくことや、個性的な人間達の面白さに虜になった。

劇団の主宰者の家で稽古をし、議論をし、一緒に食事を作り、時には夜中に車を郊外まで飛ばしてラーメンを食べに行き、かなりヤンキー(?)な生活をしていたのが懐かしい。しかしその劇団は主宰者が東由多加の「東京キッド」に参画していくことになって、結局1回の公演で「海象」は解散した。学校に帰って来た時には門がなかった早稲田に「門」ができ

ていて、自由で開かれた大学だったのに学生証を見せなければ入れなかったことがショックだった。

初めて権力への怒りを感じた。それから私は自分を問う旅が始まったのだと思う。

文学を目指し、1970年代の韓国の朴正熙政権下で学園スパイ団事件として捕まった学生の救援運動をし、いま「福島こども保養プロジェクト@練馬」

## 僕らの時代



ドアを開くと音の洪水が押し寄せてくる。苦いだけの珈琲の口を含み、曲目も演奏者も判らない音に身を任せ、目を閉じる。内へ内へと沈み込む意識を音が追いかけてくる。エバンスやモックの名前さえ知らない頃からこの空間は僕にとって特別のものとなった。

というNPO法人の活動をしていることも、その延長線上にあるのだと思う。

ともすれば影に追いやられ、見捨てられる人の地平から視点を獲得できるのか、寄り添いながら生きていけるのかと、自分に問う旅はまだ続いている。

東由多加の17回忌が、昨年練馬区で、江古田のギャラリー古藤で行われたのも、不思議な縁を感じる。(S42・教育)

## 平田 慎一郎

授業後に新大久保から歩き、花園神社の境内からゴールデン街の脇を抜け、歌舞伎町を徘徊し、ここに潜り込む。網走番外地を口ずさみ、唐十郎の目の輝きに引き込まれながら街を彷徨い、スモッグに覆われた空の様な時が過ぎていった。

少しの勇氣を持てれば違った世界に行けただろうに、臆病なジェイクブ達の一人として過ごした学生生活だった。

社会人となり、人生に喰われながら足掻いた日々、酔い醒しのため歩いた路地で口ずさんだ校歌や応援歌が何かを予感さ

せてくれたのだろうか。

時を経て、電車の窓から眺めていたラグビーグラウンドを訪れたのが始まり。部員達の息遣いと汗に魅せられ上井草詣でが始まった。

球場から聞こえてくる応援歌に誘われスタンドに足を踏み入れた時に襲われた感覚。「ここに戻ってこられた」という感慨に、喉を詰まらせながら歌った校歌が神宮通いを贈ってくれた。

稲門会のドアを叩いて幕が上がった新たな舞台。部室のような雑然とした事務所を行きかう様々な会話に、目を丸くして反応している自分を、微笑ましく受け入れてしまったことへの驚きで始まった今の生活。語る物語とてない学生時代の色合いが少しづつ戻り、当時のざわめきを感じ、懐かしい仲間との絆を取り戻しつつあるこの頃。

秋の早慶戦後に外野応援席の縁台に立ち、4年生仲間と歌った「ふるさと」が、秋の空と芝生席の緑とともに浮かんでくる。

これが僕の卒業式だった。今年もまた同じ光景が繰り返されるだろう神宮球場に立ち、僕等の時代を振り返ってみよう。

(S45・理工)

## 旅行部会

6月には歴史ウォーキング部との合同旅行を一泊二日で…

皆さんは最近どんな旅をされていますか。気ままに独り旅？ ご夫婦でフルムーン旅行？ 親友と二人で？ ……旅には色々な形がありますね。

さて、リタイアされた方の中には、その昔社内旅行をされた方がいらっしやると思いますが、楽しい思い出や嫌な思い出、様々あったのではありませんか？

私も酔った先輩にひっぱたかれた嫌な思い出があります。宿に着いて夕食まで少し時間があつたので麻雀が始まり、夕食後に続きをとということになりました。私は少し飲み過ぎてしまい、待っていた先輩が眠っていた私を起こすためにほほをひっぱたいたのが真相でした。私が悪かったのですが何故か腹が立って一遍に酔いがさめてしまい、結局麻雀にも負けるべくして負けたというお粗末な自分の記憶です。

また、女子社員も参加して、ゲームで大盛り上がり。仕舞いには男女対抗野球拳になり、あやうく映倫カット寸前まで行ってしまったという楽しい?? 思い出もあります。——どちらも共通する原因はアルコールみたいですね!! 今は、アルコールによるハチャメチャはできませんが、気心の知れた者同士の旅行には他の旅には無い面白さがあります。

私が旅行部長になってから何回か旅行を企画しましたが、最近では、3/29(水)から3/31(金)まで2泊3日、女性4人男性11人総勢15人のパーティーで隠岐の島へ旅行しました。この旅はクラブツーリズムのツアー

に乗ったのですが、隠岐の島というなかなか行けない場所の魅力が皆を結び付けた旅でした。

現地ガイドから聞いた隠岐の島の歴史や、皆で一緒に見て、

感じた風物のことを美味しい酒を酌み交わしながら談笑しあう。そして自分では気付かなかったことに気付かされる。また、その土地の美味しい食べ物を美味しい酒と皆で批評しながら共に楽しむ。こういう大勢で同じ楽しみを【美味しいお酒がキーワード】で共に楽しむことができるのが練馬稲門会旅行部の良さです。

さて、それではここで、次の旅のお知らせです。去年に続き第2回練馬稲門会旅行部と歴史ウォーキング部の合同旅行を6/25(日)から6/26(月)1泊2日で行います。

1日目は、今NHK時代小説で評判の井伊直虎の井伊家ゆかりの彦根城、織田信長の安土城等、琵琶湖周辺の旧跡。2日目は京都の二条城他を歴史ウォーキング部八巻部長の名ガイドで巡る旅です。詳細が決まり次第皆様にお知らせします。この旅はオープン参加ですので大勢の方の参加を期待しております。(文：藤澤 礎)



## カラオケ部会

カラオケを楽しみ気分をリフレッシュ、  
現役社会人対象のジュニア部会も始動

カラオケ部会は、毎月第3月曜日に定例会を開催しておりますが、この5月で91回目となります。最近では歌いながらパフォーマンスをするエンターテイナーも出てきましたので、単に歌うだけではなく見て楽しむことができる会ともなっております。演目も懐メロ、演歌からポップス、GS、カンツォーネ、小学唱歌、NHK朝ドラのテーマソング、さらには詩吟入りの詩まで飛び出すなど幅広いジャンルの曲が歌われております。また、暫く体調悪化で休んでおられた方が復帰してこられ、歌うことによって以前より元気になりました。カラオケにはリハビリ効果もあるようです。

昨年は、近隣の稲門会(武蔵野・国分寺)との交流も



新年会

始まり、武蔵野稲門会から当部会に参加される方も出てきました。さらに女性会員や現役若手会員の新規入会もあり参加者も増え、会場にしているスナックも手狭になるほど盛況になってきました。そろそろ場所の変更も検討しなければならない嬉しい状況になっております。

そして、本年からは本会とは別に新たに若手会員(20代男女2名)の企画による現役社会人を対象にしたジュニア部会もスタートしました。第一回大会は2/18(土)に高田馬場で開催されましたが、今後も年2~3回、土・日の開催を計画しております。この会はカラオケ好きの方を軸にしながら現役社会人世代の気楽な交流(異業種交流・友達作り・婚活・恋活など)の場となるように種々のイベントも企画していく予定です。現役社会人の皆様の積極的なご参加もお待ちしております。お申し込み方法は練馬稲門会HPをご覧ください。(文：土屋 正孝)



ジュニア部会リーダーの  
上田 靖仁さんと人見 美佳さん

## サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2017年5月現在、20のサークルがそれぞれ活発な活動を行っています。お好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

### ●各サークル連絡表

2017年5月現在 (事務局：作成)

	サークル	部長	卒年	連絡先(Tel)	開催予定日
1	ゴルフ部会	戸津川隆久	S39	3921-0834	毎月(日は未定、7、8、12、1、2月休会)、早慶戦(年1回)5月
2	歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	3997-5703	七福神巡り他、年6回程度(3月～5月、9月～11月) 夏冬休み
3	旅行部会	藤沢 礎	S49	3867-2210	年間3回程度
4	マージャン部会	喜々津和夫	S43	3991-7085	奇数月の最終土曜日、年2回早慶戦、年2回近隣会、年1回熱海泊
5	囲碁部会	築山 哲	S41	6760-9579	毎月第3土曜日、年1回湯ヶ原泊、春・秋豊島對抗戦
6	グルメ会	持ち回り		事務局 3994-8212	年2回程度
7	テニス部会(硬式)	菊田 勉	S44	3310-3900	毎月1回(日は未定)、夏合宿(軽井沢泊)
8	エッセイ同好会	照山 忠利	S45	5387-5176	偶数月(第3土曜日)
9	ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	3929-9383	箱根駅伝・野球早慶戦・早明ラグビー・早慶レガッタ
10	カラオケ部会	土屋 正孝	S45	3929-9227	毎月(第3月曜日)4:00～7:00
11	山歩き会	関口 嗣男	S39	3922-6859	毎月1回・第1木曜日定例会
12	写真クラブ	岡田 吉郎	S35	0424-52-9381	毎月第3水曜日
13	パソコン教室	築山 哲	S41	6760-9579	毎週木曜日(PM1:00～3:00)
14	ティータイムコンサート	土田 寿久	S42	3995-1227	3ヵ月に1回程度(歌・落語・等)
15	酒楽会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)(午後5:00～7:00)
16	釣り愛好会	松浦 康夫	S48	3904-2455	年4回
17	青年部会	小野 惣一	S60	6914-7681	年3～4回開催予定
18	料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	3994-8665	2ヵ月に1回
19	陶芸を楽しむ会	田原 亞彦	S38	3929-7063	毎月第1月曜日
20	フォークソング愛好会	河野 省三	S41	6914-5016	月1回(2時間程度)

## ぜひご覧ください!! ホームページ

開設13年になるHP。ここには当会の最新の活動がすべて集約されています。

「練稲 PRESS」と併せてご覧ください。

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報・ICTチーム

鈴木奎三郎 山田興太郎 照山忠利 岡田吉郎 平田慎一郎 築山 哲 小澤由喜雄 広瀬茂雄

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-6-2 第2春日ビル2F 練馬稲門会事務局 TEL.03(3994)8212 FAX.03(3994)8219